

## 「自分が世を去った後も」

2019年07月03日

ペトロの手紙 二 1章8節～15節 これらのものが備わり、ますます豊かになるならば、あなたがたは怠惰で実を結ばない者とはならず、わたしたちの主イエス・キリストを知るようになるでしょう。これらを備えていない者は、視力を失っています。近くのものしか見えず、以前の罪が清められたことを忘れてしています。だから兄弟たち、召されていること、選ばれていることを確かなものとするように、いっそう努めなさい。これらのことを実践すれば、決して罪に陥りません。こうして、わたしたちの主、救い主イエス・キリストの永遠の御国に確かに入ることができるようになります。

従って、わたしはいつも、これらのことをあなたがたに思い出させたいのです。あなたがたは既に知っているし、授かった真理に基づいて生活しているのですが。わたしは、自分がこの体を仮の宿としている間、あなたがたにこれらのことを思い出させて、奮起させるべきだと考えています。わたしたちの主イエス・キリストが示してくださったように、自分がこの仮の宿を間もなく離れなければならないことを、わたしはよく承知しているからです。自分が世を去った後もあなたがたにこれらのことを絶えず思い出してもらうように、わたしは努めます。

「著者」は、徳を備えるのは、主イエスの栄光と力ある業とによって、尊くすばらしい約束を与えられ、情欲に染まったこの世の退廃を免れ、神の本性にあずからせていただくようになるためであると言う。「だから、あなたがたは、力を尽くして信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には信心を、信心には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい」と勧める。信仰、徳、知識、自制、忍耐、信心、兄弟愛、これらの徳目の並べ方に意味がある訳ではないだろう。これら全てを包括する愛を、最後に強調している。これらの徳目が備わり、ますます豊かになるならば、あなたがたは怠惰で実を結ばない者とはならず、私たちの主イエス・キリストを知るようになる。キリスト者の最終的な目標は、イエス・キリストを知ることであり、知るとは関わること、献身することである。イエス・キリストと信仰において関わる者が世の退廃を免れ、神の本性に与る救いを得る。これらの徳目を備えていない者は、視力を失っている。視力を失うとは目の前のものしか見えず、以前の罪が清められたことを忘れてしていることである。キリスト者は、罪に埋もれていた生活から、主イエスの血によって罪が清められ、聖なる神と共にあることを知っている。あなたがたは主イエスに召されていること、選ばれていることを確かなものとするように、いっそう努めなさい。これらの徳目を実践すれば、決して罪に陥ることはなく、救い主イエス・キリストの永遠の御国に確かに入ることができるようになる。

「著者」は、「あなたがたは既に知っているし、授かった真理に基づいて生活しているのですが」「わたしはいつも、これらのことをあなたがたに思い出させたいのです。わたしは、自分がこの体を仮の宿としている間、あなたがたにこれらのことを思い出させて、奮起させるべきだと考えています」と言う。「著者」は、自分が仮の宿を間もなく離れなければならない、即ち、死が間近に迫っていることを知っている。私が世を去った後も、あなたがたに絶えず思い出してもらうように、努める。人は死を覚えて語る時、その言葉は真実なものとなる。「著者」は、終末の日を覚え、また、自分の死を見据えて、全キリスト教徒に、信仰に生き、確かな救いを得るように諭している。